

御所浦まちなか化石マップ



まちなかで、化石に出会う

九州の懐に抱かれた不知火海に浮かぶ離島の町、御所浦。豊かな海の幸に恵まれるとともに、あちこちから豊富で多彩な化石が発掘される、国内でも類を見ない化石の島でもあります。

この島で化石が見られるのは、なにも博物館や化石の発掘現場にかぎった話ではありません。

御所浦町の中心地、御所浦地区。ここでは、民家の庭先や路地の石垣など、生活の風景の中にひっそりと隠れた化石を見つけることができます。

みなさんも、化石の島のまちなかへ足を延ばし、太古の生きものの痕跡を探してみませんか。



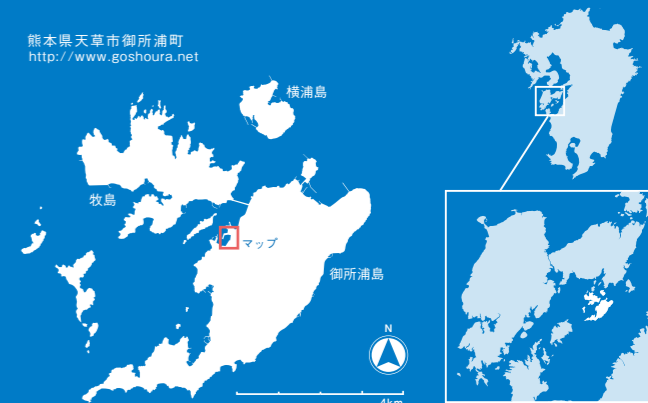
まちなか化石の家

「まちなか化石の家」は、みなさんが散策に訪れたとき、おもてなしをしてくれる島民の家。ぜひ、訪ねていっておはなしを伺ってみてください。



まちなかにはこんなレトロな看板も

熊本県天草市御所浦町
<http://www.goshoura.net>



御所浦ジオツーリズムガイドによる御所浦地区のご案内もできます。
1時間20分 / 2,000円



御所浦ジオツーリズムガイドのご予約・お問い合わせは
Tel.0969-67-2325 (天草市立御所浦白亜紀資料館)
*月曜休館

制作・発行 御所浦ジオツーリズムガイドの会
2014年試版発行 2016年改訂版発行

- 📍 地図のポイントとなっている民家は、「まちなか化石の家」として見学の許可をお願いしてあります。
- 📍 御所浦島民の生活の場ですので、写真撮影なども含め、節度をもった行動をお願いします。
- 📍 御所浦島民は気さくな人が多いので、まちなかで出会ったら挨拶をしてみてください。



1 浜本さんの庭化石・しょがん山



特段化石を集めたわけではないのですが、浜本さんの庭の石垣にはトリゴニアや巻貝の化石がいっぱい。敷地内の楠が立つ大きな岩には神様が祀られていて、しょがん(潮神)山と呼んでいます。かつて、しょがん山は海に面していました。この岩にも化石がたくさんついています。しょがん山の祠には明治39年9月建立と刻まれています。

2 栄汽船の庭化石・サブロベの井戸



栄汽船(定期船栄久丸)さんの庭には、二枚貝の化石がいった石が多く見られます。敷地の奥には「サブロベの井戸」と呼ばれる井戸があります。イヌノキの虫こぶ(サル笛)を御所浦地区では「サブロ」といい、その形にていることからこう呼ばれたそうです。この井戸には、何処から来たのか野生のウナギ(名前:サブロー)が住み着いています。

3 洗濯川のじぞう様



この川はかつて洗濯川で、洗濯のときには欠かさずじぞう様にお参りをしていました。洗濯場は島民の社交場であり、じぞう様はずっとそれを見守ってきたことでしょう。このじぞう様、ロウソク立て兼盃置きに使われている石がなんと化石。きつと、すわりが良い石を使ったら、たまたまそれに化石がついていたのでしょう。化石の島ならではの。

4 碧水館



御所浦地区古屋敷の旧庄屋、森家。「いろいろしよられた」というのは、ガイドの森枝さんの談。現在は旅館「碧水館」となっています。庭石には化石が見られ、井戸もあります。裏手には森家にまつられた弘法大師と金比羅様も。森さんが在宅なら、頼んで裏山(飛竜山)の近衛さんに参らせてもらうこともできます。

5 波止の記念碑



白黒写真は昭和30年頃の写真。真ん中奥に見える家屋は現在の写真にも写っています。現地では実際の建物を探してみてください。

明治9年に島民の区役(ボランティア)でつくられた波止を記念した碑。「邑向區波止」と書かれています。今もこの地区は村(むら)と向(むかい)と呼ばれています。平成11年に埋め立てられ、公園と駐車場のある今の姿になりました。

6 花里さんの庭・水車小屋の石臼



花里さんの庭にもたくさんの化石が。でも、それ以外にもいろんな石があります。例えば井戸の上廻りは御領石。昔運搬業をしていた関係で運んできたのかもしれないそうです。井戸の脇に置かれた大きな石臼は、洲の田(中学校の上)にあった水車小屋で精米に使われていたもの。昭和初期まで現役だったそうです。花里さんがいたらもっと詳しく聞いてみましょう。

7 浦本さんの庭・めいどサロン



浦本さんの庭にもごろごろ化石がありますが、まず何よりもお伝えしたいのは、浦本さんの軒先が「めいどサロン」であること。「めいどサロン」は「冥土サロン」という意味。天草八十八カ所巡りの休憩所なのです。「めいどサロン」はくま蒙の生みの親、小山薫堂さんも注目の取組み。どうぞ気軽に立ち寄り、浦本さんとお茶のひとつを過ごしてください。

8 菅原神社・ともづな石・力石



菅原神社には、景行天皇巡幸の際に舟を係留した「ともづな石」や市指定の天然記念物の楠(御神木)があります。今の姿を昭和初期に撮られた白黒写真と見くらべてみましょう。また、境内には力くらべに使われたという「力石」が2つ(81.9kg・80.7kg)ありますが、昭和27年生まれの森枝さんも実際に使われたところは見たことがないそうです。

9 東岸寺・五輪塔群



鶴眠山東岸寺は明治28年に、お寺がなかった当時の御所浦村の村長に招かれ、熊本の坪井から移転し、建立されました。東岸寺にある五輪塔群は移転前からあったもので、銘はありませんが、室町・戦国時代のもと考えられます。この場所に東岸寺が移ってくる以前にも、小さな寺院やお堂が建てていたことがあったのかも知れません。

10 石垣化石群



この石垣は、御所浦層江口層の堆積岩の切り石で組み上げられています。この石は御所浦地区にある石ではありません。御所浦島裏手から船で持って来たのでしょうか。石垣のあちこちに二枚貝の化石を見つけることができます。中には右の写真のように、断面がかわいらしいハート形に見えるものも。皆さんはいくつ化石を見つけられますか。

11 図書館前の密集貝化石



御所浦の代表的な珍建築のひとつである図書館は、平成2年に御所浦町出身の森田国七さんの寄付で建てられたもの。UFOを彷彿とさせるこの建物の玄関先や庭には、貝化石が密集している岩がいくつも展示されています。移動図書館で使われる車両には、恐竜の島御所浦らしくトリケラトプスやステゴサウルスのイラストが描かれています。

12 えべっさん



漁の神様である恵比須様。御所浦では親しみを込めて「えべっさん」と呼んでいます。えべっさんは、必ず海に向かって鎮座します。このえべっさんがいるのは、埋め立てられた波止の先ですが、もともとこの場所は海に突き出した陸地でした。昔の台座の上に現在の台座が建て接ぎされていますが、昔の台座の中に二枚貝の化石を見つけることができます。

所要時間のめやす ★しおさい館発着

①～⑫全てを巡る[60分]

①～⑥半分を巡る[30分]



- 🏠 地図のポイントとなっている民家は、「まちなか化石の家」として見学の許可をお願いしてあります。
- 📷 御所浦島民の生活の場ですので、写真撮影なども含め、節度をもった行動をお願いします。
- 👋 御所浦島民は気さくな人が多いので、まちなかで出会ったら挨拶をしてみてください。